

# 「経済学と聖書」(第14回)

2021年1月8日

2020年度秋学期関西学院大学経済学部

チャペルアワー(金曜日)

担当:井口 泰

## 讚美歌21 525

1 主なるイエスはわが喜び、誉れなり。

久しく王をわれは慕い、待ち望む。

神の小羊、

わが花婿なる主を喜ぶ。

2 み翼もて、われを覆い、守りたもう。

何を恐れん、たとひ悪魔脅すとも。

陰府のちからが われに迫るとも

主ともにあり。

3 別れつげよ、過ぎゆく世の虚しさに。

別れつげよ、世の誘い、世の誉れ。

われは求めず 朽ちる世の栄え。

イエスに頼らん。

4 去れ、悲しみ。わが喜び、主は来ます。

主にありては わが悲しみ、喜びに。

責めとそしりの世にわれは耐えて、

主を喜ぶ。

## EG (Evangelisches Gesangbuch) 396

### Jesu meine Freude

T: Johann Franck (1653)

M: Johann Crüger (1653)

1 Jesu, meine Freude, meines Herzens Weide, Jesu, meine Zier: ach, wie lang, ach lange ist dem Herzen bange und verlangt nach dir! Gottes Lamm, mein Bräutigam, außer dir soll mir auf Erden nichts sonst Liebers werden.

2 Unter deinem Schirmen bin ich vor den Stürmen aller Feinde frei. Lass den Satan wettern, lass die Welt erzittern, mir steht Jesus bei. Ob es jetzt gleich kracht und blitzt, ob gleich Sünd und Hölle schrecken, Jesus will mich decken.

3 Trotz dem alten Drachen, Trotz dem Todesrachen, Trotz der Furcht dazu! Tobe, Welt, und springe; ich steh hier und singe in gar sicherer Ruh. Gottes Macht hält mich in acht, Erd und Abgrund muss verstummen, ob sie noch so brummen.

4 Weg mit allen Schätzen; du bist mein Ergötzen, Jesu, meine Lust. Weg, ihr eitlen Ehren, ich mag euch nicht hören, bleibt mir unbewusst! Elend, Not, Kreuz, Schmach und Tod soll mich, ob ich viel muss leiden, nicht von Jesus scheiden.

5 Gute Nacht, o Wesen, das die Welt erlesen, mir gefälltst du nicht. Gute Nacht, ihr Sünden, bleibet weit dahinten, kommt nicht mehr ans Licht! Gute Nacht, du Stolz und Pracht; dir sei ganz, du Lasterleben, gute Nacht gegeben.

6 Weicht, ihr Trauergeister, denn mein Freudenmeister, Jesus, tritt herein. Denen, die Gott lieben, muss auch ihr Betrübten lauter Freude sein. Duld ich schon hier Spott und Hohn, dennoch bleibst du auch im Leide, Jesu, meine Freude.

## 経済学と聖書 第14回(最終回) 「コロナ危機とは何であったか」

エレミア書27:2「主は、私にこう言われた。あなたは、縄とかせとをつくり、それをあなたの首に付けよ」(新改訳版)

エレミアという預言者は、神様に捉えられ、エルサレムの人々に迫る危機の真実を語る使命を負うことになりました。このため、自分の首に縄とかせ(のちには、鉄のかせ)を背負い、ゼデキア王と、民衆に警告を発することになります。

これと同時に、ハナンヤという預言者があらわれ、バビロンからの独立を説いて、王や民衆の喝采を得るのです。心地よい未来を語ることで、人々の熱狂をさそうのは、あたかも、現代のポピュリスト(大衆迎合主義)の政治家を連想させます。

エレミアという人は、神様と出会ったがために、自らは最も不幸な人生を歩まねばならなくなりました。旧約聖書に、「哀歌」という書物があります。これは「エレミアの哀歌」です。後世、ゼレンカという音楽家が歌曲を作曲していますが、これは、危機を繰り返し経験する人類への哀歌なのですが、エレミア自身の人生の哀歌を感じさせます。

新型コロナウイルスによるパンデミックの発生から1年になろうとする現在、ワクチン開発競争が進み、一部の諸国で接種が開始されました。ワクチン接種で、急速に経済の回復が達成されるという期待と、先進国の前例のない財政拡大と金融緩和の下で、株式市場は、前代未聞の株価の高騰が生じています。そうしたなかで、仮想通貨であるビットコインへの投資も、こうした背景から過熱化しています。同時に、これらに対する警戒感も日に日に強くなっています。

実は、現在、イスラエルでは一般の人々にファイザー製のワクチンの接種が進んでいるとテルアビブ在住の友人が知らせてくれました。アメリカでは大規模な感染拡大がとまらないなか、膨大な医療資源が投入され、ニューヨークのコロンビア大学付属病院のICU(緊急治療室)は、日本全国の設置数を上回るECUMO(人口呼吸器)が稼働しているそうです。ただ、ワクチン接種が始まって、感染拡大を止める効果に関しては、ほとんど悲観的です。ベルリンやパリからも、ワクチン接種開始が伝えられ、日本はいつになるのかと逆に問われる状況です。

ワクチン接種によるコロナ危機の制圧への期待は、世界経済の暗いトンネルに出口の光になっているのです。同時に、この光がみえる前提が崩れれば、金融市場が崩壊し、経済全体が危機に瀕することにもなりかねません。

こうしたなかで、このウイルスの特徴や影響は、いまだに良く理解できていません。イギリスや南アフリカを中心に、突然変異し、感染力の高まった新型ウイルスが発見されて、トンネルの出口の光が暗く点滅してしまいう可能性があります。

幸い、開発されたワクチンは、変異したウイルスによる発症防止にも効果があるとの知見が出ています。そもそも、新型コロナウイルスに対抗するワクチンの開発が、1年もかからないうちに主要国で進展したのには、ゲノム(遺伝子)解析が進み、新型コロナウイルスのゲノムの構造が早期に公表され、世界中で利用されたことが大きいと思われる。科学技術による発見は、発見者だけのものではなく、その情報が公に利用されて、初めて、人類全体に大きな便益をもたらすことをも、今回の教訓の一つです。

しかし感染リスクの高い場所や途上国の人たちにワクチン接種が進むには相当に時間がかかり、その間に拡大する格差と犠牲者の発生が懸念され、新たな対策が必要です。とても楽観は許されません。経済学は、もっとこの問題に取り組まねばなりません。

人類は、何度も危機を繰り返してきました。それは、経済危機、内戦や戦争、そして、飢餓、疫病を伴いました。聖書からは、3千年以上前からの歴史を読み取ることができます。今日のヨハン・クリューガーの讚美歌は、ドイツを中心とする17世紀前半の30年戦争後に出版されました。危機終結まで30年というのは、大変長い苦難の時代だったのです。

時代が新しくなり、経済の相互依存が高まるにつれ、これらの危機は局地的なものでは済まなくなり、規模が拡大し、広域化したように思われます。特に、20世紀後半には、世界的規模での森林の伐採、動物の殺害や種の消滅が日常化し、平和的に共存できる宿主を失った細菌やウイルスが人間に感染しやすくなったとみられています。国境を超える人の移動は、コロナ危機直前に、年間延べ14億人を超え、感染リスクを世界に拡散させたことは、重く受け止めなければなりません。

経済のグローバル化が、地球温暖化をもたらす環境破壊の動きを加速させる一方、国境を超える人の移動の拡大に対し、公衆衛生及び医療のインフラ構築が遅れているのです。また、感染リスクの高い場所や仕事又は場所に居住する人たちは、新たなパンデミックの犠牲者になりかねないことに注意が必要です。

「インバウンド・ツーリズム」の量的拡大は、地域経済の創生の柱の一つになりましたが、同時に、「オーバー・ツーリズム」を制御できない問題を生み出しました。

感染防止がきっかけになり、在宅勤務やテレワークなどの方の柔軟化が進み、電子商取引が拡大するなど、デジタル化によって、社会や企業を大きく改革するイノベーションが進む期待もあります。元の世界に戻る発想では、持続性ある世界はもはや築けません。

今日も、危機に対峙したエレミアの言葉を聖書から読みました。経済学部の学生の皆さんが、日々聖書から、共に生きるための知恵と勇気を得られるように願っております。